

アス  
トロ  
ギスト  
モナ  
メリ  
ギストス

は  
ず  
が  
あ  
り  
ま  
せ  
ん。

偉  
大  
な  
る  
占  
星  
術  
師  
の  
私  
が

キ  
ン  
コ  
ン  
即  
き  
に  
敗  
け  
る

ADULT ONLY

アストローロギスト・モナ・メギストス

なつこつ  
こんな凶暴なモノを  
隠していたなんて

偉大なる占星術師  
私が  
ココに敗ける  
はずがない  
ません。

ですが  
下等なキンコン如きに  
なにをされても

私が墮ちる」となど  
決してありません  
!!

アストローギスト・モナ・メギストス

偉大なる占星術師の私が  
チラシ如きに敗ける。  
はずがありません。

mond shirochou

はあ…



今月も金欠  
ですか?  
何か割のいい  
仕事は…ん…?

お腹が  
すきました…



500,000 mora

?



**注意！**  
**キノコンの特殊個体です！！**  
以下の特徴があります。

**水元素無効**

※このキノコンの特殊個体は女性に対して強い催淫効果を持つ胞子を出します。女性の冒険者はくれぐれもご注意を！

☆捕獲した冒険者を苗床にする習性があります。

**500,000 mora**

私がキノコン如きに遅れを取る筈がないですからね！！















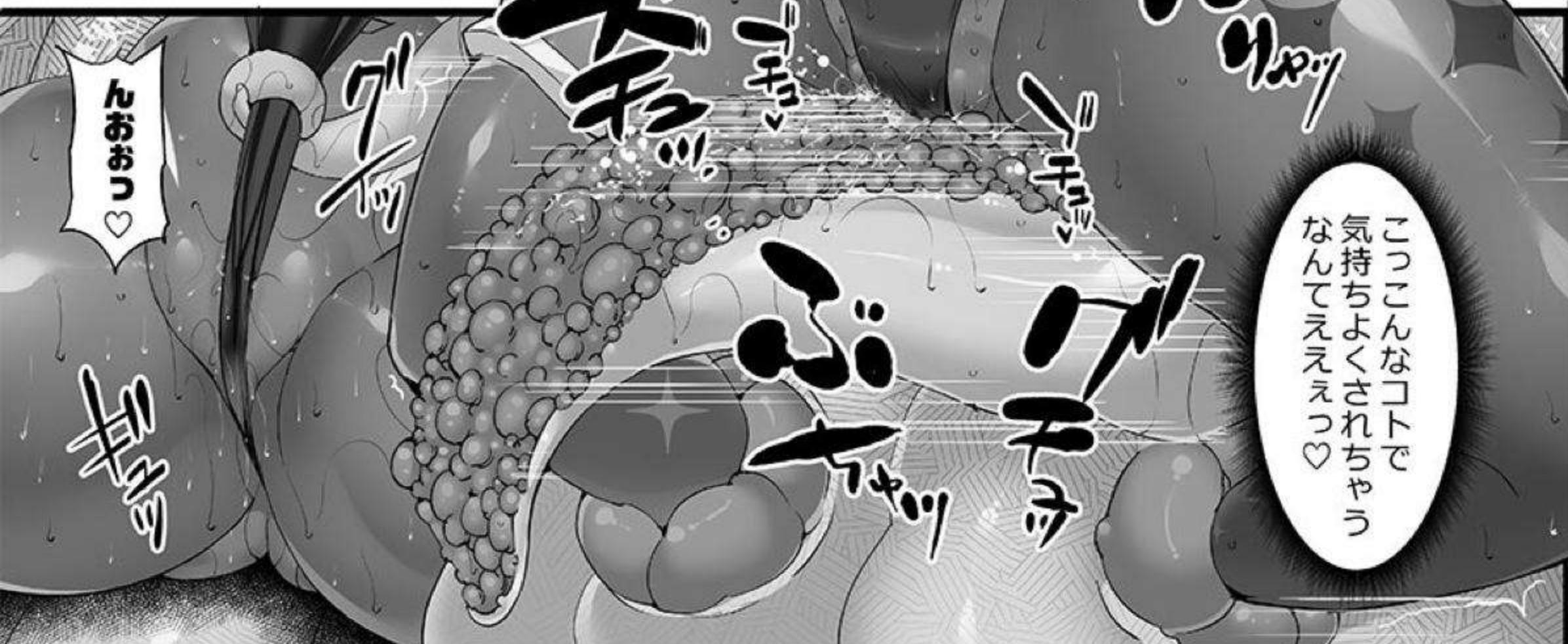
おおおおーーつ  
タメタメタメタ  
ちやうつ  
感じすぎ

知性のカケラもない  
バカ面になじゅうう



腰が…つ  
勝手に動いちゃう  
ううつ

乳首シコリながら  
ツブツブでオマンコ  
コスられて…うつ



んおおつ

こつこんなコトで  
気持ちよくされちゃう  
なんてええつ













ハハハハハハハハハハ  
リキナリナリナリナリナリ

イグツイグツイグツイグ  
ガチアクメツイグツイグ  
触手と交尾ハグハグ

きもちいい♥触手の  
特濃チンポ汁つ♥中出  
すづりゅつ♥

イグイグイグイグイグッ  
キノコ汁植え付けられて  
イツグうううううつ♥



『ここはいつも来てもジメジメとしていますね。雨林ですから仕方がない部分もありますが、寧ろ彼らにとつては好ましい環境なのでしょうね。』

スマール・諸法の森、その一角に存在するアビディアの森。モナはこの森に生息しているキノコンの調査に訪れていた。

キノコン、キノコから進化した種であり植物相を保護する能力、そして繁殖能力が向上している。そのせいか時々特殊な個体が発生し、旅人達に被害が出ている。そして問題なのはその被害にあつてはいる旅人のほとんどが女性だと言う事だ。

『聞けば繁殖能力に特化。女性ばかりを狙つては籠絡、懷柔、卑しい事までするとか。……もし退治出来ればお金もたくさん貰えそうですね。』

噂では異常発達した触手を使い女性の恥部を辱め、自らの繁殖の手籠めに変えてしまう。被害にあつた女性は戻る事無く、日に日に行方不明者が増えている。そんなキノコンを退治出来れば謝礼として報酬を貰えるのでは、常に金欠の彼女からすればうつてつけだつた。

色々と考えている内に、女性達を最後に目撃したという場所へとたどり着く。  
『ここですか？ 何というか奇妙な場所ですね。』

モナが首を傾げるのも無理は無い、その空間の一面には無数のキノコが生えていたのだが、明らかに普通のキノコでは無かった。

地面や木々から生えている物はまだ分かるが、木々から逆さになる様に生えている物もあれば、キノコの笠の部分を地面が咥え込んだかの様に生えている物もある。

更にもつと奇怪なのが…。

『……これ、本当にキノコなのでしょうか？ 卑猥過ぎますし、あるいはキノコンの仕業かもしれませんね。』

ピクピクッ…♥ブルンツ♥

そう、生えているキノコの形状だ。その形はキノコというより男性器にほど近く、大きくてびえ立つ棒の下に二つの玉の様な物が付随。触つてみるとブニブニとした感触と生温かな温もり、そしてピクピクと痙攣まで見せていた。中には先端から汁の様な透明な液体を噴き上げ、白濁とした粘着性のある液体まで噴き上げているキノコまで確認出来た。更には辺り一面に異臭が漂つており、嗅ぎ続けて居ると気持ちが昂りかけていく。

『……ツ♥兎に角早めに調査しましちゃうか。ここに居ると何故か股付近に違和感が…♥』  
ヒクヒクツ♥

実際、モナの股間付近は漂う謎の匂いに釣られじんわりと湿つており、高揚感に包まれている。嗅ぎ続けたい思いもあるがまでは調査を。

…その考えに至る事が既に遅かつたことも知らずに。

『つと、あそこに居るのはキノコン…？ 一体何を…。』

広場の様に広い空間、そこには大量のキノコン達が集まっていた。

群がるキノコン達の中心にあつた物、それは…。

『ヅ♥ヅ♥ヅ♥♥』

ピクンツ！ ピクンツ！

先程も見かけた卑猥なキノコ、しかし様子が異なつておりキノコン達が触手の様な部位を伸ばしては弄りを入れていた。そして触手が触れる毎にピクンツ、ピクンツとキノコが震え藻掻いている様にも見えててしまう。

その度に先端から汁が漏れ、カップ状に変化した触手の先端が吹き上がる汁を吸い上げていた。あの蜜はキノコン達にとつて栄養価の高い物なのだろうか、そう考えていた矢先…。

チクリッ

『……え？』

チクリ、とモナの胸先と局部に何かが刺さる感触があつた。最初は虫か何かだと思うモノだつたが、その考えは突如として消え去つた。

「おおづ♥ひぎい♥ちよづ♥身体づ♥身体が熱いッ。♥♥一体何がづ♥♥」  
ヒクヒクツ♥ビクンツ♥

胸に走る高揚感が抑えられなくなり、股への刺激が急激に増していく。これは興奮している、しかも性欲による物だと瞬時に見抜いてしまう。急ぎ、手足を動かそうとするも…。

ガシツ！

『んなづ／？いつの間にキノコンが：♥は、離してください…ツ♥つて、倒れ…ツ♥』

時既に遅し、モナの背後には無数のキノコンが触手を伸ばし切っておりモナの四肢を拘束。振り解こうと身体を捻ってしまった反動からか、身体は仰向けに倒れてしまった。何とか受け身を取る事は出来たものの、立つたまま倒れてしまつた為まるでブリッジをしている様な恰好を作ってしまう。その結果…。

『なつ…♥なんて恥ずかしい姿を…♥早く拘束を解かなければ…♥』  
ジワツ♥ヒクヒクツ♥ビンツ：♥

濡れた局部の割れ目がくつきりと目立つてしまう、卑猥なブリッジ姿勢の出来上がりだ。加えて高揚感が止まらないのか、美しさすらある整ったおっぱいの頂点に見える乳首がほんのりと勃ち上がり、軽度の勃起を見せていた。また地面に向かって垂れ下がる肉先の良いお尻も色情のせいなのか、一層の弾力を醸し出す。占星術師の見事な拘束ブリッジ姿をキノコ達が見逃すはずも無かつた。

ビクツ♥ビクツ♥

『まさかツ…♥私が見たキノコの正体つて…！女性…！』

グチュグチュ♥ズリリイ♥ゴシゴシツ♥  
『んおおテ♥や、やめづ♥んひい♥触手がつ♥おっぱいや股ツ♥乳首を擦つてツ♥アアツ  
ツ♥ツ♥』

無数に伸びるキノコンの触手はモナの胸に絡まり、胸部を愛てる様に粘膜を擦り込ませていく。軽度に勃起した乳首の先端や湿った局部を中心に何度も上下にゴシゴシと、丁寧なブラシングの様な擦りで継続的な快楽を与える。気持ち良さからくる物なのか、周囲に誰も居ないからなのか、モナもはしたない声を挙げて喘いでしまう。

手足はガクガクと震えいつ倒れてもおかしくはなかつたが、彼女を支える触手がブリッジ姿勢の解除を許してはくれない。

ムグムグ…♥ビクツ！  
『ほぎつ！？こ、今度は一体何ツ♥こ、股間がづ♥乳首が更に熱くづ♥アツアツアツ♥♥』  
♥』

更に先程刺激があった乳首や局部…クリスリスにも違和感が走る。急激に引っ張られる感覚、集中する快楽によって勃起が止まらない。そして…。

ムグムグツ！ボロンツ！ビンビンツ！  
『えづ…♥コレって男性の…！？なんて私の股間から生えて…ツ♥』

見るも雄々しき立派な男性器が股間から生えてきてしまう、俗に言うフタナリチンポだ。空に突き上げる様に勃起しながら勃っているチンポは衣服に張り付きながら生えており生の姿こそ見せなかつたものの、逆に亀頭や笠と言つた部分を鮮明に見せつける様な形となつていて。更に股間から垂れ下がる玉袋は握り拳サイズ、こちらもビックチリとした質感が弄るキノコン達の性欲を刺激する。あまりの情けない姿、与えられた快楽で亀頭の先端から白濁交じりの液体が吹いていた。…そしてここまで的情けない姿になつて、モナは初めて気が付いた。今回の件の真相に。

ビクツ♥ビクツ♥

『嫌ツ…♥それだけはやつ…♥ンギヨオオオオオオ…！』  
カブツ♥デュルルウウ♥♥♥

そんな絶好の餌を逃すキノコン達では無かつた、早速強い吸引力でモナチンボに吸い付いた。先程と同じで先端をカップ状に変え、音が漏れ聞こえる程のパキューム音を鳴らし、フタナリチンボを根こそぎ吸いつくす勢いで。キノコン達からしてもモナから擰取出来る精液は上質だと認知されたのだ。

じゅぶつ！グボグボグボツ♥♥パンパンツ♥ぢゅるるつ  
ズブズブツ！ドブツ♥ビュルルツ♥♥

『ヅヅヅ♥♥♥ンブツ♥ンブツ♥触手チンポヅ♥口マン  
まれてるデデデ♥♥♥イグイグイグヴヴヴ♥♥イグの止ま

『ヅヅヅ♥♥♥♥ンブツ♥ンブツ♥触手チンポゞ♥口マンコとマンコとケツマンコに突っ込まれてるデデデ♥♥♥♥イグイグイグヴヴヴ♥♥イグの止まらなくなるデデデ♥♥♥』

ジユルルツ♥♥するるつ♥♥ギュブギュブツ♥ビトビトビツ♥  
「アアアアア♥♥♥♥イグツ♥イグダヴヴ♥♥♥先端からづ♥オチンポの先端から精液が搾  
り取られてツツ♥♥イグヴヴ♥♥♥」

まるで自分から提供するかのように亀頭からチンボミルクをドブドブと排出しながら、絶頂をキメ込んでしまうモナ。フタナリチンボブリッジという言葉にすらしたくない恥ずかしい姿の上に搾取まで、女性としての尊厳すら奪われていく。更に、液体を搾り取れるのは何もフタナリからだけでは無い。

まるで自分から提供するかのように亀頭からチンポミルクをドブドブと排出しながら、頭をキメ込んでしまうモナ。フタナリチノボブリッジという言葉にすらしない、必ず

カブツ♥ぢゅるるるつ！グビビイイ♥♥♥びゅるるつ♥ドブドブツ♥

「ンツホオオオ！？！オオオ♥♥ちくづ♥乳首はやめてええ♥♥勃起乳首イグツ♥乳首責めされながらイグヅヅ♥♥♥」

彼女の勃起した乳首からも白い液体……母乳が吹き上がり、キノコン達の養分として吸収されていく。最初に刺された針の様な触手で刺激された結果、妊娠していないのに母乳が出る身体にされてしまった。更には胸も増量、巨乳と呼べる程には大きくされてしまう。今のモナはキノコン達の栄養源、イキながらミルクを提供するだけのメスだ。そんなモナチンポを堕とす為、極太の触手が動いた。

『んつおづんえづ股間にづキンタマに何か当たづるつ。！？えづ…それだけは無理…お願いだからやめづ』

モナの眼前に見えたのは腕ほどの太さもある触手、先端から何かの液体を吹かしている。更にキンタマに伝わる感触は垂れ下がる玉袋を持ち上げている感覺だ、その下に何があるのかモナは知っていた。女性として残された最後の恥部、身体にある三つの穴、挿入されれば戻つてこれない。……モナはまるで悦ぶ様に股と尻穴を開き、自らの意思で受け入れ態勢を整えてしまった。

「ツ・♡ツ・♡ツ・♡(もつと吸つて…♡モナチソ吸い上げてえ…♡)」

胞子の中でもナランボは思った。更に吸い上げて欲しい、キノコン達に栄養を注ぎたい。  
そして、更なる快樂を与えて欲しいと…。



## あとがき

お久しぶりです！翡翠石です。

最近はSNSの発達もあり、あまりあとがきを書くことも少なくなったのですが、はじめての原神本なので、初めましての方もいらっしゃるかと思い 軽いご挨拶と語りを…！

原神は1年位前にひょんな理由から軽い気持ちで試しに始めてみたんですが、はじめてみると世界観と物語が丁寧に作り込まれていて重厚で、キャラクター達はそれぞれみんな個性的で魅力があって… 景色は美しくて歩いているだけで世界に没入できて楽しいし、音楽もとても素敵で… プレイしてすぐ大ハマリしてしまいました。

そんなわけで今回はプレイ前から気になっていたモナちゃんの本です！  
はじめて見たときからこのキャラデザにはやられていたので、こうして実際にゲームを遊んで本を出せてとても嬉しいです。

原神は服飾が大変なので、作画力口リー的に、またこうして本を出せるかはわかりませんが、機会があったらぜひ今後もえっちなものをやってみたいです！

それでは、長くなりましたが、ここまでお読み頂きありがとうございました！  
今後ともゲームが末永く続くことを願って。失礼します。

## 奥付

発行サークル：Stapspats

執筆：翡翠石(ヒスイ)

誌名：偉大なる占星術師の私が

キノコン如きに敗けるはずがありません。

発行日：2023/08/13

印刷所：ねこのしっぽ

PixivID：1473639

TwitterID：hisui\_spats

E-mail：hisuispats@gmail.com

※18歳未満の方の購入/閲覧を禁止します。

無断転載/複製複写/Webへのアップロードを禁止します。



**STAPSPATS**